

遠野の文化を未来へ 遠野文化フォーラム —鎮魂と芸能—



シンポジウムで芸能の役割について考える学識者ら

遠野の文化的資源を生かしたまちづくりを考える「遠野文化フォーラム」(遠野文化研究センター主催)は8月22・23の両日、あえりあ遠野などで開催され、市民や学生ら330人が参加しました。

22日は、「鎮魂と芸能」をテーマに、震災時に芸能が果たした役割などについて分析。東北文化財映像研究所の阿部武司所長による映像報告や、詩人と津軽三味線奏者、ピアニストによる公演、学識者らによるシンポジウムなどを開催し、議論を深めました。このほか、市民の舞台を40年継続している遠野物語ファンタジー制作委員会に遠野文化賞を贈り、新たに認定された遠野遺産と遠野こだわりの語り部に認定証を交付しました。

23日は、「花とイナウ」と題し、東北からアイヌ文化について考える研究報告やシンポジウムが行われました。



2日目は遠野みらい創りカレッジが会場。議論は白熱しました

新たに認定された遠野遺産

※番号は遠野遺産認定番号

<新規認定>

142 伊勢両宮神社と松尾神社(六日町、有形文化遺産)

143 牛頭天王の石碑(小友町、有形文化遺産)

<追加認定>

75 藤沢の滝と應瀧神社(小友町、有形遺産)

8月8～12日 東京大イノベーションサマープログラム2015

大学生と高校生が国際交流

写真・文/遠野みらい創りカレッジ 佐々木 愛実

東京大と海外の大学生42人、遠野高校の生徒29人が、遠野みらい創りカレッジを拠点に民泊体験やフィールドワークなどに取り組み、遠野の未来を考えました。大学生が、高校生に対して授業形式のワークショップを開き、遠野のまちづくりについて議論。最終日には、その成果を市関係者らに提案しました。



若者のアイデアが遠野の未来を変えます

8月8日 みずほ台ジュニアサッカークラブとの交流試合

サッカーを通じて交流を深める

ヴァレンテとおの(部員45人)と埼玉県のみずほ台ジュニアサッカークラブ(以下、みずほ台。部員25人)は、市国体記念サッカー場で交流試合を行いました。みずほ台の佐藤勝博代表(73歳)が、遠野高の卒業生という縁で、交流試合が実現。両チームの子どもたちは、サッカーを通じて交流を深めました。



果敢にボールを追う両チームの選手

8月15日 第25回遠野納涼花火まつり

5,000発の花火が夜空に舞う

夏の風物詩、「遠野納涼花火まつり」が早瀬川緑地グラウンドで行われました。約520の企業・団体・個人から協賛を得て開催。今年は第25回を記念し、第1部と第2部のはじめにナイアガラの滝などの華やかな仕掛け花火が披露されました。市民や帰省客など3万人は、夏の夜空を彩る大輪の花火に酔いしれました。

遠野の夜空に咲く大輪の花火



8月6日 宮守町の商業施設に大手ホームセンターがオープン

官民連携の力で、まちなか再生！

市は、宮守町の商業施設・リバーサイドショッピングタウンm1を約9千万円かけて公有化し、同町の活性化の拠点とする取り組みを行っています。

8月6日には、㈱サンデー(本社:青森県八戸市)が、食品や日用品など幅広い商品を取り扱う「ホームマーケット」の営業を同所で開始。同日行われた記念式典には、関係者や地域住民ら300人が出席し、テープカットや地元

園児によるわんこ体操の披露などで開所を祝いました。

市は、同所を「みやもり中心市街地活性化センター」(仮称)と名付け、平成28年度以降は図書館や親子広場などの公共スペースも整備する予定。ホームマーケットの集客力を生かしながら、めぐね橋や道の駅みやもりなどとの一体的な活用を検討し、同町の中心市街地活性化を図る計画です。



1_ わんこ体操を披露する地元の園児たち 2_ 装いも新たに、中心市街地活性化の中核として再スタートしました

8月1日 旧上郷中の教室を活用して国際教育

遠野グローバルプラザ開設

青年海外協力協会は、旧上郷中に教育交流施設「遠野グローバルプラザ」を開設しました。空き教室を、世界各国の品々を集めた展示スペースと学習スペースとして活用。



国際色豊かな展示スペースは必見です！

同協会のノウハウを生かし、企画展や、国際理解講座などを開催し、次代を担う人材育成に取り組めます。

※開所時間は9時～16時半。月曜休み。見学無料

8月1日 有名アニメーターが特別教室を開催

オリジナルの妖怪を描こう

「妖怪ウォッチ」のキャラクターデザインを手掛けている須田正己さんと、アニメプロデューサーの藤田勝己さんが、市立博物館で特別教室を開き、市民ら50人がオリジナルの妖怪づくりに挑戦しました。2人は妖怪を描くコツを分かりやすく指導。また、自身が制作した遠野のオリジナルアニメを披露しました。



オリジナルの妖怪を持って「ハイ、チーズ！」

7月～8月 八戸市、武蔵野市、大府市の市民ら来遠

夏休みに広がる交流の輪

7月から8月にかけて、本市には交流のある自治体から多くの市民が訪れ、交流活動が盛んに行われました。平成南部藩寺子屋交流事業で青森県八戸市から小学生ら52人、愛知県大府市小学生都市間交流事業で同市から24人、東京都武蔵野市家族ふれあい自然体験in遠野で同市から16家族45人がそれぞれ来遠。参加者は、民泊体験や観光、交流イベントなどに取り組み、夏の遠野を満喫しました。



平成南部藩寺子屋交流事業 7月27～29日 写真/レクリエーションで交流を深める八戸市と市内の児童ら

大府市小学生都市間交流事業 8月20～23日

写真/遠野馬の里で、馬と触れ合う児童たち



武蔵野市家族ふれあい自然体験 in 遠野 8月21～24日 写真/遠野ふるさと村の南部曲り家の前で記念撮影